

前回のふりかえり（R1年度 第3回 8/7開催）

校区別勉強会の開催に向けて

今回は校区別勉強会開催に向けて話し合いました。みなさんから出た意見の一部を紹介します。

Q. 普段、集まりの場に出てこない人たちに参加してもらうには？

- いつも参加する人たちは同じで、地域で役職をしている人ばかりだけど、「役職がある」ということが参加する理由になっている。新しい人たちに参加してもらうきっかけとして、若い世代の役職のある人（PTAや父親委員など）を誘ってみては？
- 開催の案内を見たとしても、自分から参加しようとは思えないが、知っている人から誘われることで、行ってみようという気になると思う。その場に参加した人が誰かを誘うことで、少しずつ新たな参加者が増えていくのでは？
- 若い人は回覧板を見ていない。SNSやLINEなどでの情報発信も検討してみては？
- 開催の情報は届いたとして、「そこに参加したい」と思われる場所になっている？ 大刀洗の住民の印象：遠慮深い。自分から参加するタイプではないが、声をかけられれば参加し、いい意見を言ってくれる。新しいことをスタートして、継続していくには、きっかけ・なかも・ノウハウの3つが大事。
- 来てもらうのではなく、出向いていくほうがよいのでは？ 本当に困っている人は出てこられない。例：ミニデイの隙間の時間で聞き取り、子育て支援センターチャオやぐるりんばでの聞き取り
- 新しい人たちを巻き込んでいくために、テーマごとの勉強会があってもよいのでは？ 例：子育て中のお母さんは女性同士で「共有したい」との気持ちがあるよう。
- 子育て世代は子どもと一緒に参加できると参加がしやすい。
- 定期的に話し合う場を設けていくことが大事。人数に拘らず、回数を重ねる。
- 定例の日時を決めて集まる場を開催しては？ 参加人数に拘らず、そこに行けば、いろんな話ができるという場。
- 校区ごとに自主防災組織があるが、実際に災害が起きたときは行政区単位でなければ動けない。役場が避難所になっているが、「あそこまでどうやって行くの？」との声も多い。いざというときに備えて、話し合う機会が必要。校区別勉強会がそのきっかけになれば。
- 住民の声を聞く場として、小地域協議会や校区センターの活用を。
- 今、陽だまり～touch A LIFE～は一步踏み出しきれずにいる状況。一步踏み出すためには、校区別の勉強会が定着し、そこでの意見や情報を陽だまり～touch A LIFE～（町全体）で共有していくことが必要。まずは校区別勉強会の開催を。

今回の陽だまり～touch A LIFE～に初めて参加いただいた方をご紹介します。自己紹介では、「☆おすすめしたい食べ物」をお話ししていただきました。

田中 翔 さん

甘木郵便局に勤務。3年前から鶴木に住んでいます。大刀洗町民としての日はまだ浅いですが、勉強して町に貢献したいと思っています。
☆おすすめしたい食べ物
キッチンヴェロンの日替りパスタ

高村 経明 さん

菊池校区センター長をしています。
☆おすすめしたい食べ物
家庭菜園で果物を作って食べています。今年は八朔、琵琶、瓜がたくさんできました。

中山 哲志 さん

大刀洗町副町長をしています。
☆おすすめしたい食べ物
キュウリの炒め物
ざく切りにしたきゅうりを玉子と一緒に炒めて、塩と醤油で味つけ。簡単にできますよ。

渡邊 直也 さん

役場地域振興課自治振興係で、校区センターの管理やセンター長会議の担当をしています。
☆おすすめしたい食べ物
立石かまぼこの枝豆チキン天（限定商品のようです。）

